

1 宗三寺



曹洞宗の寺。本尊は釈迦如来。鎌倉時代の僧、玄統が開山。川崎宿で最も古い寺である。境内にはかつて宿場の賑わいを支えた飯盛女(遊女)の供養塔があることでも有名。

所在地 川崎区砂子1丁目4-3



10 芭蕉ポケットパーク

平成17(2005)年に川崎宿のはずれにあたる場所に完成した松尾芭蕉をしのぶポケットパーク。付近は芭蕉が弟子達と別れを惜しみ句を詠み交わした所とされ、その年の秋に芭蕉は大阪で帰らぬ人となった。石盤にはこの時の7人の弟子たちの句が彫られている。



所在地 川崎区日進町24-15



12 無縁塚

川崎宿を出て、横浜方面に向かう道を八丁驛と呼んだ。この付近では江戸時代から多くの人骨が発見されており、こうした無縁仏のために昭和9(1934)年に供養塔が建てられた。また、昭和45(1970)年頃より、毎年5月の第4日曜日に地元下並木町内会による御供養が続けられている。

所在地 川崎区下並木(京急八丁驛駅敷地内)



11 芭蕉の句碑

「俳聖」松尾芭蕉の足跡をしのびし句碑。芭蕉の句碑は数多くあるが、実際に句を詠んだ地に建てられた碑は少なく、大変貴重なものとされている。

所在地 川崎区日進町11-9



8 小土呂橋の親柱(擬宝珠)

小土呂橋は、かつて新川堀用水と東海道が交わる地点に架けられていた。昭和のはじめ新川堀の埋立により橋は撤去され、現在は交差点脇の歩道に親柱(擬宝珠)が保存されている。

所在地 川崎区小川町14-1



9 教安寺

浄土宗の寺。本尊は阿弥陀三尊立像。天文22(1553)年に創建。境内には「生き仏様」といわれた徳上人の六字名号碑がある。江戸時代に作られた梵鐘も残っている。

所在地 川崎区小川町6-2

2 六郷の渡し・明治天皇の碑

江戸時代、東海道往来の際の要であり、幕府からの助成金によって常時10数隻の舟で旅人や荷馬を渡した。現在新六郷橋には欄干の渡船のモニュメントとともに渡船跡の碑と明治天皇六郷渡御碑が建てられている。



所在地 川崎区旭町1丁目3

3 田中本陣跡

寛永6(1629)年に川崎宿で初めて設けられた本陣。八代將軍吉宗の江戸入場の際、当主の田中休庵が三角形のおむすびを並べて「葵の御紋」に見立てて提供したといわれており、これが三角おむすびの発祥という説もある。



所在地 川崎区本町1丁目4-6付近



6 シャッター浮世絵

かつての東海道川崎宿にあたる通り沿いの店舗のシャッターに、地域の協力を得て、浮世絵を設置する取り組みを実施。シャッターには浮世絵が描かれ、江戸時代当時の東海道の賑わいを偲ぶことができる。



所在地 川崎区本町1~2丁目、砂子1~2丁目、小川町、日進町(東海道)、下並木

7 佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑

川崎宿にあった3つの本陣のうち(大名や公家専用の旅館)の一つ。大正時代に活躍した歌人で歌謡曲の作詞家としても有名な佐藤惣之助は、代々本陣職を務めてきた佐藤家の生まれ。本陣跡の向かいに記念碑が建っている。



所在地 川崎区砂子2丁目11(碑)・川崎区砂子2丁目4(本陣跡)

4 東海道かわさき宿交流館

江戸時代の東海道の宿場であった東海道川崎宿の歴史、文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流拠点となることを目指して、東海道沿いに設置された施設。映像資料や模型の展示、まち歩きをされる方々が気軽に立ち寄ることができる休憩・交流スペースなどを設けている。(月曜休館。月曜が祝日の場合はその翌日が休館)

所在地 川崎区本町1丁目8-4



5 中間灯

東海道川崎宿起立400年を記念し、「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」により製作・設置された中間灯。中間灯とは、東海道沿道の道路照明等に「東海道川崎宿」又は「東海道」の文字と浮世絵(全10種)をデザインした照明。夜になると行灯のような雰囲気を醸し出す。

所在地 東海道沿道

